

## 総務常任委員会行政視察

提出者 吉田 つとむ

令和元年5月15日（水）～令和元年5月17日（金）

出雲市分 令和元年5月17日（金）

出雲市の観光事業について

### <概要>

出雲市は市内に出雲大社があり、知らない人は無いように言われています。

観光客も、出雲市には年間1200万人ほどの来訪者を迎えています。\*最大は遷宮行事のクライマックス時に、1500万人以上に達しています。

他方で、年間宿泊者数は平成30年で75万人弱ほどでした。

また、外国人宿泊者数は平成30年でわずかに8000人弱ほどの人数でした。

宿泊者数が少ない、外人来訪者が少ないという課題を改善するための施策が実施されており、出雲大社+αのコンテンツ探し、海外の知名度アップの取り組みが行われています。



### <所感>

- 広域の観光資源の結びつきが図られており、
  - ・日本遺産、「日が沈む聖地出雲」の認定、日御碕（ひのみさき）
  - ・日本ジオパーク、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」
  - ・国立公園満喫プロジェクト「大山隠岐国立公園」との連携が挙げられています。



\*それぞれに魅力は十分にあり、そのネットワークは達成されていると思います。ただし、出雲市が宿泊地となるには、その宿泊施設が魅力あるものになる必要があります。現在、「出雲市宿泊機能強化対策事業補助金」を持ちいた、大型のホテルが出雲駅周辺にもできていますが、「お金を落とす」タイプの施設には見えませんでした。これからも出雲市内に宿泊者は増えていくと思いますが、駅周辺の宿泊施設には、それ自体に魅力が出るまでには至っていないように思いました。

今回の訪問で訪れていませんが、宿泊先としては、同じ出雲市内の日御碕（ひのみさき）や宍道湖周辺に拡大される方がより、拡充内容に対応しているように思いました。あるいは、この対象事業の例の一つに上げられていた宿泊施設のようなタイプ（壮大な出雲大社自体の隣接地にある）のホテル・旅館の方が、宿泊機能が拡充しやすいと感じました。



○ 観光資源の掘り起こし（体験型旅行商品の開発）

夜の魅力を打ち出し策として、配布資料の中に、日御碕灯台のライトアップ

ブがありましたが、縁結びの神様として、出雲大社自体に魅力が備わっており、来訪時間の拡充策が検討されているものと思いました。

出雲へのアクセスには、空路、陸路（山陰本線）、海路（境港と浜田港のクルーズ船）がありますが、まだまだ、拡充の手段が残されており、島根（出雲）がその食の魅力を打ち出せば、十分な飛躍があると思いました。

食では、昼の時間にいただいた、「出雲そば」以外にも、たまたま出雲市内で夜の時間に食した、宍道湖の「しじみラーメン」だけでも、味の出来栄えが伝われば、来訪目的に適したものでした。訪れた店舗以外にも、出雲市内に多数あるようです。



自分の公式挨拶中に、町田市も観光事業で宿泊が少ないという課題を抱えていると説明させていただきました。